

水量もめっきり減ってきた。もう源流も近い。兩岸にいくつもの炭焼き釜あとをみる。燃料革命は木炭を追放し、炭焼きはごく一部で行なわれるだけとなってしまったが、感時の名残りはあちこちで見られる。11時05分、ほとんどやぶごぎなしで尾根に出る。尾根には跡跡があった。 (記・

出合(8:15)——二俣(9:30)——尾根(11:05)

赤沢中俣(下降)

1982年5月23日

L

尾根上で20分程小休止してから赤沢の下降にかかる。10分程下って本流へ。この沢もナメが多いようだ。やがて4mの滝。右岸に足形があって、この沢にもいろんな往来があったことをしのばせる。8mの滝は左岸を捲く。ナメと滝で今のところ奮闘気は上々である。

期待しながら下っていたら、沢がいつべんに平凡となくなってしまった。もうあまり期待ももてそうがないので、兩岸にかすかに残る跡跡を適当に使いながら下る。この沢沿いにも炭焼き釜あとが多い。桑柵あともあった。

13時10分、兩岸がせまり急に奮闘気がよくなくなった。しかし滝はかからず、すぐまた平凡になってしまった。13時30分、取水ダムに着く。ここで沢からあがり、水路ぞいの跡跡をたどってお振部落へ出る。 (記・

下降開始(11:25)——取水口(13:30)——お振(13:50)

布入川

1982年5月23日

L

二俣になった所の橋より入溪。兩岸に石垣が積んで

